

16

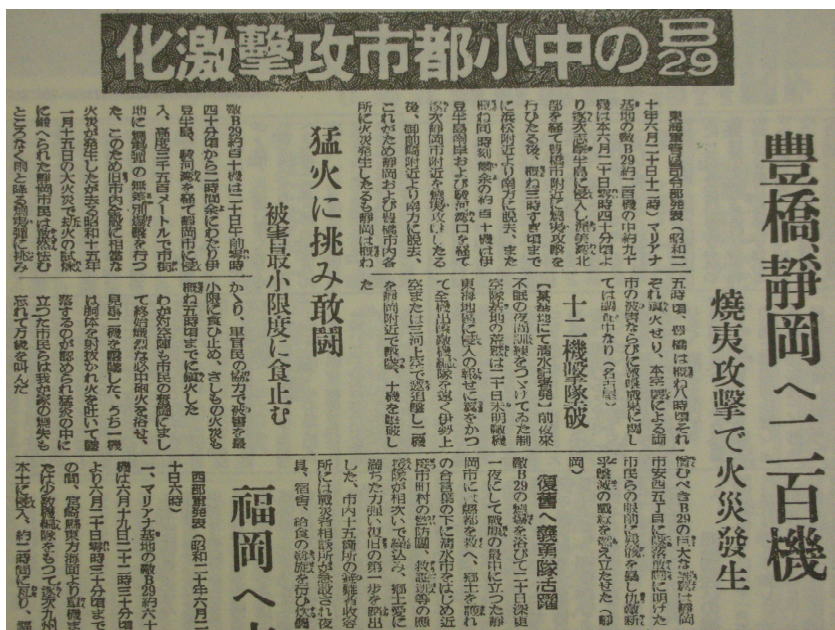
お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
とく とく めい 匿名	女性	85歳	19歳	小畑

- ① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。  
実家で百姓ひやくしやうをしていました。
- ② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。  
ラジオ放送で知りました。
- ③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子  
何とも言えない思いでした。
- ④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

### 「伊勢の工場へ動員で」

戦争中は、学校を卒業後は家にはおれず、宇治山田うじやま（現在の伊勢市）\*1の工場くわしやうで働いていて、毎日空襲くうしゆうにあいました。一生懸命けんめいに仕事をした工場も、空襲で全部焼けて、実家へもどりました。

帰る時に、名古屋や豊橋は家も何もなく、焼け野原で、西も東も分からないほどでした。新城まで来て、そこから歩いて2時間半ぐらいでやつのこと家に着きました。家へ帰っても、防空ずきんだけで着替えがないので、親がヤミ米と替えてくれましたが、毎日が不自由なことばかりでした。



二十年六月二十一日の新聞 (協力 朝日新聞社)

豊橋空襲を伝える朝日新聞  
豊橋市は壊滅的な被害があつたにもかかわらず、新聞は「市内各所に火災が発生したが八時頃鎮火した。伊勢、三河上空で十二機を撃破した」と報道している。

\*1 宇治山田市（現在の伊勢市）への爆撃は、当時の日本の国家的重要地だった『神都』を攻撃することで、日本人の戦意を低下させるねらいがあつたといわれる。宇治山田市は大きな爆撃を6回受けるが、なかでも20年7月29日の爆撃はすさまじく、市内の約60%を焼失し、死傷者は192名にのぼった。